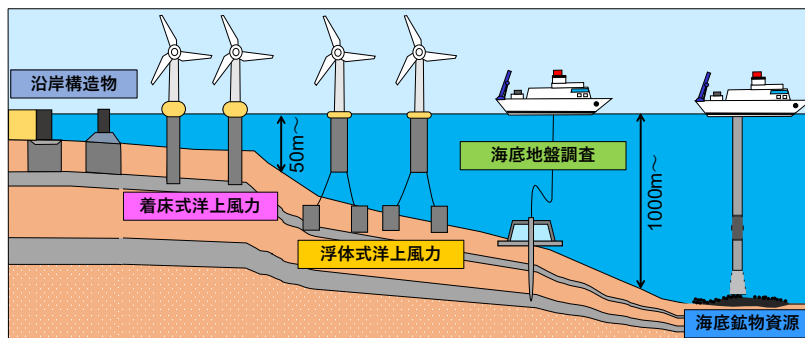


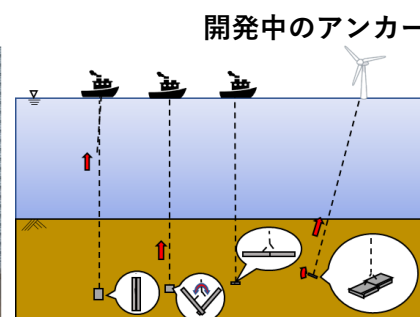
研究対象領域と分野

研究対象領域は沿岸域 (Nearshore) から沖合 (Offshore) と広く、海底地盤に関する工学的な諸問題について研究しています。また、地盤工学だけに留まらず、流体との相互作用や、地盤の流体的挙動についても研究しており、分野横断研究にも取り組んでいます。



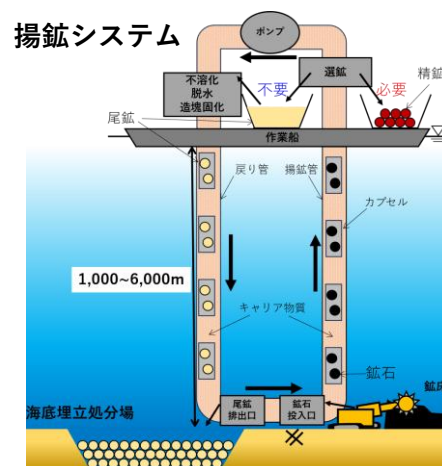
洋上風力発電

着床式と浮体式の両方の洋上風力発電を研究対象としており、着床式に関しては全体系の安定性や振動特性の解明、浮体式に関しては係留アンカーの地盤内での基本的な挙動や新形式のアンカーを開発しています。風車建設に必要な地盤調査法についても技術開発中です。



海底鉱物資源

海底には多くの鉱物資源が眠っています。水深数千mの海底で、どのように鉱物を採取し、それを船上まで揚げ、不要な土を環境に配慮して海底で処分するかを研究しています。海底資源の活用の実現可能性を高めるため、一連のサイクルを総合的に研究しています。



沿岸構造物

沿岸域には、波から陸域を守りつつ、海を利活用するための防波堤や岸壁、護岸、堤防などの沿岸構造物が設置されています。これらの高波や津波、地震動などの大きな外力作用下での挙動について研究しています。また、流体～地盤の相互作用が発生する場所であり、波による護岸の被災メカニズムなどを地盤工学の立場から研究しています。



海洋地盤工学研究室 Marine Geotechnics Laboratory



研究室

海洋地盤工学研究室（通称、**地盤研**）では、教員ごとの研究室単位ではなく、高橋研究室と野村研究室が合同でグループとして活動・行事を行っています。合計で約20名ほどの教員・研究員・学生で活動しています。また、沿岸研とも協力し、実験室や学生室を共有したり、合同でゼミや行事を行ったりもしています。**様々な教員や学生とふれあい**ながら研究室生活を過ごすことが出来ます。基本的に、大学院の先輩とチームを組み、それぞれの分担を決めて協力しながら研究を進めていきます。また、模型実験と数値解析、現場実験を研究ツールとし、他機関の大型実験施設も利用します。

ゼミと進学

地盤研では、**3種類のゼミ**を開催しています。①沿岸研と合同のプレゼン形式の検討会（週1回）、②地盤研内で研究を深く議論する勉強会（月1回）、③研究や行事の進捗を話し合う報告会（月1回）です。その他に、教員との面談や先輩との議論なども日常的に行います。これらの活動を通して研究室にすぐに馴染め、仲間と研究を進める楽しさを実感できます。また、**大学院に進学**する学生が多く、教員も進学を推奨しています。4年生と大学院生がチームを組むことで、先輩から多くを学び、後輩を育てる経験ができ、大きな研究課題を仲間と取り組むこともできます。



所属学生



研究室

学会発表と留学

得られた研究成果を積極的に対外発表し、社会に貢献し、社会から学ぶことを目指しています。**国内の学会**や**他大学との交流会**を始め、大学院に進学すれば、**国際学会**等において海外での発表を行うこともできます（過去に、スペイン、韓国、オーストリア、ギリシャ、カナダ、ノルウェー等に派遣）。また、大学のプログラムなどを利用して**海外留学**も可能です。



社会とのつながり

地盤研では、研究成果を社会実装することを目標としており、社会とのつながりを大切にしています。例えば、国内外の研究所（ノルウェー地盤工学研究所、JAMSTEC、電力中央研究所、港湾空港技術研究所など）や産業界（ゼネコン、マリコン、建設系コンサルタントなど）との共同研究を行っており、それに学生も参加できます。現場見学やインターンシップに参加することもできます。また、社会で活躍しつつ大学で学んでいる社会人ドクター・マスターの先輩が研究室に所属しており、実際の仕事の大変さや面白さを教えてくれます。これらの活動を通して、**社会に出て活躍**できるスキルが身につきます。就職先としては、大成建設、五洋建設、東洋建設、不動テトラ、日揮、千代田化工建設、JOGMECなどが挙げられます。